

◀ ヤング頑張ってます ▶

3年半を振り返って

独立行政法人 海技教育機構 村松 渚 紗

皆さま初めまして。今回「ヤング頑張ってます」に寄稿させて頂くことになりました、独立行政法人海技教育機構三等機関士の村松渚紗と申します。出身は茨城県南部であり、大学入学までは海とはまったく無縁の生活を送っていました。しかし“機械工学”という枠組みで選んだ東京海洋大学にて、それまで知らなかった船の巨大なエンジンに魅了され、現在機関士として働いております。

今回は2013年10月入所してからの3年半を振り返り、稚拙な文章ではありますが特に印象的だったものを綴っていきたいと思います。

まず就職して第一船目は「青雲丸」という練習船に乗船しました。青雲丸は乗船実習の最終船で乗船していた船であり、乗船実習中に配管調査や暖冷機作業も行い、さらに、青雲丸の機関について懇切丁寧に書かれた教科書を持っていました。私としてはまさに勝手を知った船であったというわけです。

しかし、当然のことながら実習生のときとは求められるレベルが違います。それに加え、実習生の頃は何をするにしても一緒だった同級生がおらず、一人で考え、作業の準備や予習をしなければいけません。そこで初めて“仕事”としての機関士の大変さを身に沁みて感じました。

その様な私に、周りの先輩機関士や航海士は根気強く教えて下さり、仕事以外のときもよく声掛けをして頂きました。何度も失敗しましたが、周りの方々に助けられ、なんとか乗り切ることができました。青雲丸での基礎

があるからこそ、今までやって来られたと強く感じています。

第2船目は「海王丸」という帆船でした。汽船に比べ機関科の実習生が少なく多少の寂しさは感じましたが、その分、機器の保守整備作業に打ち込むことができました。

青雲丸のときと比較し、周囲にも目を配る余裕ができました。また、後輩や機関部乗組員の仕事ぶりに目を配り、なるべくスムーズに仕事を進めるように心掛けました。海王丸では、円滑にそして確実な仕事をするためにはコミュニケーションがとても大切であることを学びました。

また、海王丸では就職後、初めての遠洋航海に行きました。帆走で航海し寄港したサンフランシスコ、ホノルルでは日本では味わえない心地よい開放感を感じました。束の間の休日でしたが、からっとした気候で飲むビールとゆっくり流れる時間はやみつきになりそうです。

そして現在、第3船目となる「銀河丸」に乗船しています。青雲丸、海王丸と違い、実習生の時に実習していない練習船です。その上、乗船翌日に実習生が乗船してきました。その様な状況でも、第1船目の青雲丸、第2船目の海王丸と比較すると乗船してから船に慣れるまでの時間は格段に早くなったと感じます。仕事の流れも掴め、初めて乗船する船でもどのように仕事の準備をすればよいか自分のペースを作ることができるようになった

のではないかと自分では思っています。それでももちろん不測の事態は起こります。まだまだ初歩的なミスも多いです。そんな時にこそ初心に戻り、自分を成長させるチャンスとして仕事に励んでいます。

振り返るとこの3年半はあっという間に過ぎました。しかし、とても密度の濃い3年半でもありました。毎日何かしら新たにできるようになることが増えていくこと、新しく知ることが増えていくことが、とても充実し楽しく感じます。そして、それ以上に実習生が毎日何かを学び得ていくことに強いやりがいを感じています。

まだまだ失敗も多いですが、少しでも多くの優秀な機関士を送り出せるよう、これからも励んでいきたいと思えます。



ゴールデンゲートブリッジ通過中の海王丸

安全運航と環境保全、そして経費節減

YUNIC シリーズ … 燃料油添加剤

YUNISOL シリーズ … スケール除去剤

YUNISHELL SYS. … 海洋生物付着防止装置

(Y) 日本油化工業株式会社

本社 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9 (郵船ビル3F)
電話 045(201)8867(代表) FAX 045(201)8358
横浜工場 〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町2148-3 (第2工業団地)
電話 045(811)2731(代表) FAX 045(811)2733
神戸営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル1階
電話 078(321)4105 FAX 078(321)4107
URL:<http://www.nipponyuka.jp>